

楽しい外国籍指導

平井 聡子

レジュメ

- 1、国際教室とは
- 2、国際教室の学習
- 3、外国籍児童問題
- 4、今後のD小学校

内容

1 国際教室とは

国際教室とは、日本語の力をつける場所である。現在本校であるD小学校の児童数は512人である。外国籍児童の割合は、ブラジルが10%、フィリピンが14%となっている。

日本語指導が必要だと思われる児童は、そのうちの74%にのぼる。これは、JSL評価表に基づき予想する数値である。

国際教室は、その日本語指導が必要だと思われる児童74%の中でも最も日本語指導が必要である児童を国語（6学年全て）と算数（低学年中学年）の時間に取り出して日本語の指導と教科指導の両面の指導を行う場所である。

可児市では、バラ教室 KANI という、外国から引っ越してきた児童生徒に必要な最低限の日本語を教える学校が存在する。主に国語ではひらがなとカタカナ、また学年に応じた漢字や挨拶の仕方などを、算数では、学年の進度に合わせた算数などを学ぶことが出来る。また、日本の学校に適応できるように、給食指導や掃除指導、持ち物の名前や登下校の仕方など、生活様式も学べる。

日本で生活をしたことがある児童生徒は、このバラ教室 KANI に通級することが出来ず、日本の学校に転入、進学することとなる。そこで、本校は国際教室を低学年、中学年、高学年、なかよし教室の4クラスを設立し、指導に当たっている。

2 国際教室での学習

国際教室では、国語の指導を全学年、算数の指導を4年生までおこなっている。

通常教室の進度に合わせて教科書を使って指導をするが、日本語も織り交ぜながら日本語の指導も並行して行う。

①音と動作を交えて覚える。

②ものまねをして覚える。

③歌にして覚える。

教科や日本語指導のほかに、学校行事や災害についての説明も行う。

☆問題1

フィリピン、ブラジルの学校では行われない行事は次のうちどれでしょう

①遠足 ②宿泊研修 ③修学旅行 ④運動会 ⑤家庭訪問 ⑥社会見学 ⑦卒業式

☆問題2

日本の小中学校になくて、海外の学校にあるものはどれでしょう？

①売店 ②図書館 ③音楽室

☆問題3

海外の体育の授業でないものはどれでしょう？

①バスケットボール ②プール ③なわとび

3 外国籍児童の問題

①日本語能力が向上しない

原因は様々だと思いますが、その1つは、日本語を覚えなくても、学校生活を送れる生活環境にあると考える。学級の中で、母語を話す仲間がいることは、安心に生活を送れる原因の一つと言えます。

学校で生活するためには、日本語をおぼえなければならない。という切迫感は、仲間が多ければ多いほど、薄れていく状況を生み出す。

彼らが自分自身の将来を思い描き、自ら努力が出来るような進路指導が必要だ

と思う。

②外国人児童生徒が年々増えることに対して、学校適応指導者・日本語指導が追い付かない。

③常時、外国人児童の問題事案が上がる。それにより、学年・学級担任の負担を増やす結果になる。

4 今後のD小学校